



鮮銀行法中改正法律案、日程第七、臺灣銀行法中改正法律案、日程第八、產業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案、日程第九、輸出補償法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ九案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ガゴザイマセヌカ

〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平頼壽君） 御異議ナイト認メマス、河田大藏大臣

〔左ノ案ハ朗讀ヲ經タルモ參照ノ  
タメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕

外國爲替管理法改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

外國爲替管理法改正法律案

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左

外國爲替管理法

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左

外國爲替管理法改正法律案

スル外國ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領  
債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ  
國居住者ニ對スル債權

七 外國居住者ニ對スル債權ノ取立又  
八 取立ノ依頼若ハ引受

八 外國居住者ノ爲ニスル債權ノ取立又  
又ハ取立ノ依頼若ハ引受

九 外國居住者、本邦内ニ居住スル外  
國人（外國法人ノ本邦内ニ在ル支店  
其ノ他ノ營業所ヲ含ム）又ハ命令ノ  
定ムル本邦法人ノ本邦内ニ於テ爲ス  
財產（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル  
出資ヲ含ム以下同ジ）ノ取得若ハ處  
分、預ケ金ノ引出又ハ貸出金ノ回収  
前號ニ掲グル者ノ爲又ハ之ヲ相手  
方トスル本邦内ニ於テ爲ス前號ニ掲  
グル取引又ハ行爲

十一 外國爲替相場ノ取極

十二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券（財  
產權ヲ證スル證書及帳簿ヲ含ム以下  
同ジ）、債權又ハ債務ノ取得又ハ處分  
十三 本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居  
住者ニ對スル債權又ハ債務ノ取得又  
ハ處分

十四 信用狀ノ發行又ハ取得

十五 外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲

十六 證券ノ輸出又ハ輸入

十七 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲  
替ヲ取組マザル貨物ノ輸出又ハ輸入  
十八 外國ニ在ル財產ニシテ第一號、  
第十二號又ハ第十三號ニ掲ゲザルモ  
ノノ取得又ハ處分

第十九條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外  
國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政  
府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合  
ニ限定スルコトヲ得

第二十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十三條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十五條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十六條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十七條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十二條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十四條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

三年以下ノ徵役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下  
ノ罰金ニ處ス但シ當該取引又ハ行爲  
ノ目的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超エ  
ルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下ト  
ス

第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違  
反シ金貨幣、金地金、金ノ合金若ハ金  
ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的  
ヲ以テ收得シ若ハ輸出セントシタル者  
又ハ通貨、外國通貨若ハ證券ヲ輸出若  
ハ輸入セントシタル者亦前項ニ同ジ  
ノ他外國トノ間ニ於ケル債權債務ノ決  
済又ハ外國ヨリ外國ヘノ送金ノ受領其  
ノ他外國ノ間ニ於ケル債權債務ノ決  
済國間ニ於ケル債權債務ノ決済ニ關シ其  
ノ方法、條件其ノ他必要ナル事項ヲ命  
ズルコトヲ得

第五條 政府ハ必要アルトキハ命令ノ定  
ム所ニ依リ報告ヲ徵シ、帳簿書類ノ  
備付ヲ命ジ、帳簿書類ノ記載方ヲ指定  
シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ  
臨檢シ業務状況若ハ帳簿書類其ノ他ノ  
物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第六條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本  
法ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ日本銀  
行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ取扱  
務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第八條 第三條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第九條 第四條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第十一條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第十二條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第十三條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第十四條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第十五條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第十六條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第十七條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第十八條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第十九條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十三條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十五條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十六條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十七條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十二條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命  
令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反  
シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、  
ザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行

爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對

シ亦第七條乃至前條ノ罰金刑ヲ科ス

第十三條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本

店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代

表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ

本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ

之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル

人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從

業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行

爲ニ付亦同ジ

第十四條 當該官吏、外國爲替管理委員

會ノ會長委員幹事若ハ第六條ニ規定ス

ル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ

職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依

ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人

ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタ

ルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第三條ノ財產ノ賣却價額其ノ

他本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主

務大臣ノ諮詢ニ應ズル爲外國爲替管理

委員會ヲ置ク

外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅

令ヲ以テ之ヲ定ム

#### 附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

不動產融資及損失補償法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日 衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

不動產融資及損失補償法中改正法律案

不動產融資及損失補償法中左ノ通改正ス

第二條中「九年」ヲ「十二年」ニ、「十八年」

ヲ「二十一年」ニ改ム

第七條第二項ヲ削リ同條第一項中「不動

產融資及損失補償法中左ノ通改正ス

產融資損失審查會ヲ「日本銀行特別融通

及損失補償法第五條ノ特別融通損失審查

會」ニ改ム

#### 附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前不動產融資損失審查會ノ決定

シタル融資銀行ノ受ケタル損失及其ノ額

ハ第七條ノ改正規定ニ依ル特別融通損失

審查會ノ決定シタルモノト看做ス

臨時資金調整法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

臨時資金調整法中改正法律案

臨時資金調整法中左ノ通改正ス

第六條中「十億圓」ヲ「二十億圓」ニ改ム

第十三條中「五億圓」ヲ「十億圓」ニ改ム

#### 附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

兌換銀行券條例ノ臨時特例ニ關スル法

律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行券條例ノ臨時特例ニ關スル法

律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行券條例ノ臨時特例ニ關スル法

律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行券條例ノ臨時特例ニ關スル法

律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

ハ之ヲ公示スペシ

第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ

對シ保證トシテ同額ノ金銀貨、地金銀、

政府發行ノ公債證書、大藏省證券其ノ

他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保有ス

ルコトヲ要ス

第三條 兑換銀行券ノ種類ハ兌換銀行券

條例第三條ニ規定スルモノノ外大藏大

臣之ヲ定ム

第四條 日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所

ニ依リ兌換銀行券發行高ヲ官報ニ廣告

スペシ

附 則

ハ之ヲ公示スペシ

第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ

對シ保證トシテ同額ノ金貨、地

金銀、兌換銀行券、日本銀行ニ對スル

預ヶ金、國債證券其ノ他確實ナル證券

又ハ商業手形ヲ保有スルコトヲ要ス

大藏大臣必要アリト認ムルトキハ朝鮮

銀行及臺灣銀行ニ對シ前項ノ規定ニ依

リ保有スル金貨、地金銀、兌換銀行券及

日本銀行ニ對スル當座預ケ金ノ總額ノ

銀行券發行高ニ對スル割合ニ關シ必要

大藏大臣必要アリト認ムルトキハ朝鮮

銀行及臺灣銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所

ニ依リ銀行券發行高ヲ官報ニ廣告

スペシ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

當分ノ内之ヲ適用セズ

朝鮮銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行法及臺灣銀行法ノ臨時特例ニ

關斯ル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十八日

衆議院議長 小山 松壽



マスルガ、現在貯蓄債券ノ發行餘力ハ少額トナリマシタノデ、其ノ發行限度ヲ擴張スル必要ガアルト認メマシテ、本法律案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、其ノ次ニ兌換銀行券條例ノ臨時特例ニ關スル法律案ニ付キマシテ御説明申上ゲマス、現行ノ兌換銀行券發行制度ニ依リマスレバ、兌換銀行券ノ發行ハ之ヲ正貨準備ニ依ル發行ト保證ニ依ル發行トニ區分スル建前デゴザイマスルガ、斯カル發行制度ハ、現在ニ於テハ啻ニ兌換銀行券發行ノ實情ニ副ハヌモノガゴザイマスバカリデナク、却テ今後ニ於ケル通貨政策遂行上障碍トナルモノト認メラレマス點ガゴザイマスノデ、此ノ際正貨準備發行ト保證發行トノ區分ヲ停止スルト共ニ、兌換銀行券ノ發行限度ハ、政府諸般ノ經濟金融政策ト睨ミ合セテ大藏大臣ガ之ヲ決定スルコトトシ、以テ事態ノ推移ニ應ジ得ル彈力性アル制度タラシムルコトヲ適當ト認メタノト認メマスノデ、大藏大臣ニ於テ其ノ種類及發行高ニ關スル公告ノ方法ハ、今後事態ノ推移ニ應ジ、適宜之ヲ變更シ得ルコトヲ必要ニゴザイマス、次ニ兌換銀行券ノ種類及發行高ニ關スル公告ノ方法ハ、未だ其ノ時期ニ非ザルモノト認メラレマスノトシ、此ノ際ト致シテハ本案ノ如ク臨時の措置トシテ之ヲ行ハムトスルモノデゴザイマス、現行ノ朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ發行制度ハ、現行兌換券銀行券發行制度ト大體同様デゴザイマシテ、銀行券ノ發行ヲ仕拂準備ニ依ル發行ト保證ニ依ル發行トニ區分スル建前デゴザイマスルガ、兌換銀行券發行制度ヲ前申シマシタ如ク改正スルニ伴ヒマンテ、是ト同様ノ理由ニ依リ、此ノ際兩銀行券ノ仕拂準備發行ト保證發行トノ區

分ハ之ヲ停止スルト共ニ、兩銀行券ノ發行限度及其ノ發行高ニ關スル公告ノ方法ハ、大藏大臣ガ之ヲ定ムルコトヲ適當ト認メタ次第デゴザイマス、唯現在兩銀行券ハ、大藏大臣ガ之ヲ定ムルコトヲ適當ト認スカラ、兩銀行券ノ兌換銀行券ニ對スル兌換性ヲ確保スル爲ニ、大藏大臣ハ必要ニ應ジマシテ、兩銀行ガ銀行券發行高ニ對シ一定期合ノ兌換銀行券、又ハ是ト經濟上同ニ視スペキ物件ヲ保有スベキコトヲ、命じ得ルコトトスルノ必要ガアリト認メラレルノデアリマス、次ニ日本銀行ニ對スル預ケ金ハ、之ヲ經濟上ヨリ見マスレバ、兌換銀行券ト實質的ニ何等異ル所ガナインデアリマスカラ、之ヲ兩銀行券ノ保證物件中ニ加フルコトト致シタ次第デゴザイマシテ、而シテ右ノ諸點ニ關スル改正モ、兌換銀行券發行制度ノ改正ト同様臨時措置トシテ之ヲ行フヲ適當ト認メタ次第デアリマス、次ニ朝鮮銀行法中改正法律案及臺灣銀行法中改正法律案ニ付テ御説明申上げマス、朝鮮銀行ノ現行納付金制度ハ、朝鮮銀行創立當初ニ設置セラレタモノデゴザイマシテ、今日ノ事態ニ適應セザルモノガアルノデゴザイマス、殊ニ同行ノ銀行券發行限度ハ屢々擴張セラレテ參ッテ居リマシテ、今回亦同銀行券發行制度ノ臨時改正ヲ必要トル狀況デアリマシテ、同行ガ銀行券發行ノ特權ニ基キ收得スル利益ハ同行ノ負擔ト調和ヲ得ザルモノト認メラレルノデゴザイマス、次ニ臺灣銀行ニ於キマシテモ、其ノ銀行券發行ノ特權ニ基キ同行ノ收得スル利益ハ、朝鮮銀行ノ特權ニ於ケルト同様ノ理由ニ依リマシテ、此ノ特權ニ對スル報償トシテ臺灣銀行ノ利益ノ一定部分ヲ政府ニ納付セシムルコトヲ必要ト認メラレルノデゴザイマス、然ルニ朝鮮銀行及臺灣銀行ハ、共ニ大正末期以來長クスガ、近年兩銀行ノ業況ハ大イニ改善セラレ、毎期相當多額ノ利益ヲ擧グルニ至リマ

シタノデ、此ノ際朝鮮銀行納付金制度ヲ整備スルト共ニ、臺灣銀行ニモ是ト同様ノ納付金制度ヲ新設スルヲ適當ト認メタ次第デゴザイマス、以上七件ニ付キマシテ何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 石黒農林大臣  
(國務大臣石黒忠篤君演壇ニ登ル)  
○國務大臣(石黒忠篤君) 只今上程セラレ  
マシタ日程第八ノ産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案ニ關シマシテ、提出ノ理由ヲ申上ゲマス、此ノ法律ハ昭和七年、當時ノ農山漁村ノ經濟事情竝ニ一般金融情勢ニ鑑ミマシテ、信用組合及信用組合聯合會ノ固定致シマシタ債權ヲ資本化致シ、以テ産業組合金融ノ疏通ヲ圖ルコトヲ目的トシテ制定セラレタモノデゴザイマスガ、施行後融通期限ガ延長セラレテ今日迄相當ノ實績ヲ擧げ來タノデゴザイマス、其ノ融通期間ガ、本年ノ九月末日ヲ以テ終了スルコトニ成リマシタ、而シテ産業組合ノ現状竝ニ現在ノ經濟事情ニ鑑ミマスルト、更ニ本制度ヲ繼續致シテ、事變下ニ於キマスル組合金融ノ圓滑ヲ期スルコトガ必要デゴザリマスルカラ、諸般ノ事情ヲ考慮致シマシテ、特別融通資金ノ融通期間及融通期限ヲ三箇年延長スルコト致シタインデゴザイマス、尙農林金融改善ニ關シマシテハ、他ニモ特別融通ノ制度ガゴザリマスルガ、是等ノ特別融通ノ損失審査會ハ、此ノ際之ヲ整理統合致シマシテ、一ツニ致スコトヲ至當ト認メマシタノデ、委員會ヲ改正ヲ致スコトニ致シタ次第ゴザイマス、以上が本法案ヲ提出スル理由ノ概要デゴザイマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ願ヒマス

申上ゲマス、申ス迄モナク輸出貿易ノ積極的増進ヲ圖リマスコトハ刻下ノ急務デゴザイマス、而シテ之ガ對策ト致シマシテハ、幾多ノ方策ガ考ヘラレルノデゴザイマスルガ、特ニ現下ノ國際情勢下ニ於キマシテハ、輸出業者ガ輸出貿易ニ對シ積極的ナ氣分ヲ失フコトナク、安ンジテ輸出ノ維持促進ヲ期スルコトガ出來ルヤウニ致シマスルコトガ最モ肝要ト存ズルノデゴザイマス、此ノ趣旨ニ鑑ミマシテ、既ニ昨年末以來、現行法ノ許ス範圍内ニ於キマシテ保險のナ補償ヲ實施致シテ居ルノデゴザリマスルガ、更ニ今回輸出補償法ヲ改正致シマシテ、從來實施シテ參りマシタ金融上ノ便宜ヲ付與スル甲種補償及保險のニ損失ヲ墳補スル乙種補償ノ區別ヲ廢止シ、總テ保險のニ補償スル單一ノ制度トスルト共ニ、政府ノ損失補償ノ限度ヲ引上げ、又豫算ヲモ増加致シマシテ、最近ノ國際通商情勢ノ變化ニ對處致シマシテ、一層輸出補償制度ヲ積極的ニ活用シ、以テ我ガ輸出貿易政策ノ遂行ニ遺憾ナキヲ期シタ伊存ズル次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵戸澤正己君　只今上程セラレマシタ外國爲替管理法改正法律案外八件ハ、此ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　賛成

○議長（伯爵松平賴壽君）　戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平賴壽君）　御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス  
〔白木書記官朗讀〕

外國爲替管理法改正法律案外八件特別委員（二月十九日議長選定）

侯爵細川　謹立君　伯爵大木　喜福君  
子爵今城　定政君　子爵裏松　友光君  
子爵上原七之助君　石渡莊太郎君

男爵高崎 弓彦君	男爵深尾隆太郎君
男爵明石 元長君	有賀 光豐君
竹下 豊次君	土方 久徳君
兒玉 謙次君	磯野 康幸君
平沼 亮三君	中島德太郎君
中山 太一君	侯爵淺野 長武君
東亞海運株式會社	第一讀會
東亞海運株式會社法案	村田遞信大臣
右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因	昭和十六年二月十八日
テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也	(小字ハ衆議院ノ修正ナリ)
東亞海運株式會社法案	衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長伯爵松平賴壽殿	(小字ハ衆議院ノ修正ナリ)
第一章 總則	東亞海運株式會社法
第一條 東亞海運株式會社ハ支那ヲ中心	東亞海運株式會社法
トスル本邦海運業ノ振興發展ヲ圖ルヲ	東亞海運株式會社
目的トスル株式會社トス	第一條 總則
第二條 東亞海運株式會社ノ資本ハ一億	東亞海運株式會社ハ支那ヲ中心
圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加	トスル本邦海運業ノ振興發展ヲ圖ルヲ
スルコトヲ得	目的トスル株式會社トス
第三條 政府ハ東亞海運株式會社ニ對シ	第二條 東亞海運株式會社ノ資本ハ一億
出資ヲ爲スコトヲ得	圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加
政府ハ金錢以外ノ財產ヲ以テ出資ノ目	スルコトヲ得
的ト爲スコトヲ得	第三條 政府ハ東亞海運株式會社ニ對シ
政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ	出資ヲ爲スコトヲ得
株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ	得
第四條 東亞海運株式會社ノ株金ノ第一	回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコ
トヲ得	トヲ得
政府ハ金錢以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有	スル株式ノ第二回以後ノ株金拂込ニ充
得	ツルコトヲ得

第五條 政府第三條第二項又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ出資ノ目的ト爲シ又ハ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格並ニ之ニ對シテ與フル株式ノ種類及數ニ付東亞海運株式會社政
府出資財產評價委員會ノ議ヲ經ベシ
東亞海運株式會社政府出資財產評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
商法第三百五十三條ノ規定ハ東亞海運株式會社ニハ之ヲ適用セズ
第六條 東亞海運株式會社ノ株式ハ記名式トシ、政府、公其團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限り之ヲ所有スルコトヲ得
政府ノ許可ヲ受ケタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ東亞海運株式會社ノ株式ヲ所有スルコトヲ得
第七條 東亞海運株式會社ニ非ザルモノハ東亞海運株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ス
政府ノ許可ヲ受ケタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ東亞海運株式會社ノ株式ヲ所有スルコトヲ得
第八條 東亞海運株式會社ニ社長副社長各一人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク
第九條 社長ハ東亞海運株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
副社長及理事ハ社長ヲ輔佐シ定款ノ定期
第十條 政府ハ東亞海運株式會社ノ業務
モ東亞海運株式會社ニ命ジテ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得
ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス
監事ハ東亞海運株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十二條 東亞海運株式會社ハ支那各港間、日本支那間支那第三國間ニ於ケル海運業ヲ營ムモノトス
第十一條 社長、副社長及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第十三條 第三章 業務
第十四條 第四章 政府ノ監督及助成
第十五條 第五章 合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
第十六條 第六章 度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
第十七條 第七章 政府ハ東亞海運株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第十八條 政府ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ東亞海運株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査セシムルコトヲ得
政府必要アリト認ムルトキハ何時ニテ

モ東亞海運株式會社ニ命ジテ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得
議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消スルコトヲ得
第二十條 政府ハ其ノ指定スル定期航路ヲ經營セシムル爲東亞海運株式會社ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得
第二十一條 東亞海運株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額が政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄後五年間ヲ限リ之ニ達セシムベキ金額ヲ爲スコトヲ要セズ
第二十二條 東亞海運株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當
政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間ヲ限リ之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ相當スル額及當該年度ニ於テ支拂ヒタル社債ノ利息額ノ合計ヲ超ユルコトヲ得ズ
度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
第十七條 政府ハ東亞海運株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第十八條 政府ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ東亞海運株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先づ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ
東亞海運株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ヨリ前項ノ規定ニ依ル償還金額ヲ控除シタル殘額ノ二





デアリマス、其ノ中ニ速記ヲ中止致シマシテ、懇談的ニ質疑應答ヲ行ヒマシテ、十分ニ審議ヲ遂ゲタノデゴザイマス、其ノ内容ハ頗ル多岐ニ亘ツテ居リマシテ、隨分澤山ノ事項ガゴザイマスカラ、私ハ其ノ必要ナル部分ヲ御報告申上ゲマス、現行刑法ハ、御承知ノ通り明治四十一年ニ施行セラレタノデアリマシテ、政府ハ大正十年ニ臨時法制審議會ヲ設ケマシテ、臨時法制審議會ニ向テ刑法中改正スペキ條項ヲ諮問致シタノデアリマス、臨時法制審議會ハ、同年ヨリ大正十四年迄審議ヲ致シマシテ、改正綱領トシテ四十箇條ヲ議決致シマシタ、其ノ後司法大臣ハ、刑法改正調査委員會ヲ設ケマシテ、此ノ綱領ニ基イテ條文ノ審議ヲ致シマシテ、昨年四月審議ヲ終シテ、刑法改正假案ト名ヅケマシテ社會ニ公表シタノデアリマス、然ルニ昨年十月、政府ハ各種ノ委員會ヲ整理致シマシテ、此ノ刑法改正委員會モ亦廢止スルコトニナリマシタ爲ニ、此ノ委員會ノ議決シマシタコトハ、刑法各則ハ大體ニ於テ殆ド決ッタヤウナコトデアリマスケレドモ、總則ニマダ留保條項ガ少シクアリマシタ爲ニ、確定案ニナリマセヌデ、刑法改正假案ト云フコトニナッタ譯デアリマス、今回提出ニナリマシタ刑法ノ改正案ト申シマスノハ、其ノ刑法假案ノ全部ヲ提出スルコトが出來ナカツタノデアリマシテ、政府ハ「司法大臣が御述ニナリマシタヤウニ、非常時局ノ内外情勢ニ鑑ミテ必要ナル部分ミヲ立案シタノデアリマス、サウシテ此ノ法案ニ於テ改正シヨウトル事項ハ大凡八項目アルノデアリマス、刑法ハ國民ニ利害關係ノ重要ナルモノデアリマスカラ、此ノ改正ノ要綱ヲ茲ニ申上ゲテ御報告ヲ致シマス、第一ノ項目ハ「現行刑法ヲ罰金科料ヲ納付シマセヌ場合ニ、勞役場留置ニ附スルノデアリマスガ、其ノ勞役場留置ノ期限ヲ、現行刑法デハ一日以上一年以下トシ

改ヌタノデアリマスノデ、今度ハ一日以上二年以下ニ置ノ期間ハ三年ヲ超ユルコトガ出来ナイト云フ新規定ヲ設ケタノデアリマス、是ハ此ノ改正案ニ於テ罰金ト科料ヲ併科スル場合ハ、留マスガ、是デハ足リナインデアリマシテ、ソレカラ第二ハ、没收消滅ノ規定ノ改正デアリマス、現行法デハ、犯罪行爲ニ因ツテ得タル物ノ次ニ、犯罪行爲ノ報酬トシテ得タル物、ソレカラ其ノ外ニ又犯罪行爲ノ對價トシテ得タル物ト云フノモ加ヘタノデアリマス、ソレカラ以上ノ物ヲ沒收スルコトガ出來マセヌトキニハ、其ノ對價ヲ沒收スル、其ノ價ヲ追徴スル……間違ヘマシタ、沒收デナク追徴デアリマス、追徴スルコトガ出來ルト云フ規定ヲ置イタノデアリマス、ソレカラ第三ハ、強制執行ト入札ニ關スル規定ノ新改正デアリマス、現行刑法デハ、公務ノ執行ヲ妨害スル罪ガ規定シテアリマスガ、其ノ九十六條ノ次ニ持ツテ行ツテ、九十六條ノ一ト云フモノヲ加ヘタノデアリマス、是ハ強制執行ヲ免ル、目的ヲ以テ財產ヲ隱匿シタリ、又ハ財產ニ對スル假裝ノ譲渡、所謂虛偽ノ譲渡デアリマス、假裝ノ譲渡ヲシタリ、假裝ノ債務ヲ負擔シタリスルト云フコトガアリマスカラ、之ヲ取締ルト云フ法律デアリマス、次ニ九十六條ノ三ト云フモノヲ矢張リ加ヘマシタ、是ハ入札ノ場合ニ於テ、入札ヲスル者ガ談合行爲ニ依ツテ不正ナ事ヲスルト云フコトガ社會ニ行ハレルヤウデアリマスカラ、之ヲ取締ル趣旨デ此ノ規定ヲ改メ設ケタノデアリマス、入札ノコトハ、從來ハ警察犯處罰令ニ依ツテ拘留又ハ科料ニ處スルコトガ出來タノデアリマスガ、斯フ云フコトデハ取締ガ出來ナインデアリマス、殊ニ警察犯處罰令ノ規定ハ、談合ノ如キモ

ノニハ當ラナイ場合ガアリマスカラ、ソレ  
デ社會ノ事情ニ鑑ミテ、政府ハ此ノ規定ヲ  
置イタノデアリマス、次ハ第四デアリマス  
ガ、安寧秩序ニ對スル罪ヲ新タニ設ケタノ  
デアリマス、是ハ第七章ノ一二ニ加リマシタ、  
是ハ少シ重要ナコトデアリマスカラ少シ  
詳シク申上ゲマスガ、要スルニ大體ニ於テ  
目的罪デアリマシテ、人心ヲ惑亂スルコト  
ヲ目的トシテ虛偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ  
五年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五千圓以下  
ノ罰金トナツテ居リマス、次ニ經濟上ノ混亂  
ヲ誘發スルコトヲ目的トスル、是モ其ノ目  
的ニ依ツテ虛偽ノ事實ヲ流布シタル者ヲ罰  
シタル時ハ罰スル、是ハ刑ガ三年以下ニナツ  
テ居リマス、其ノ次ニアリマスノガ、戰時、天災  
其ノ他ノ事變ニ際シ人心ノ惑亂、或ハ經  
濟上ノ混亂ヲ誘發スベキ虛偽ノ事實ヲ流布  
目的トスル、暴利ヲ得ルコトヲ目的トシテ、  
金融界ノ攢亂、重要物資ノ生産又ハ配給ノ  
阻害、其ノ他ノ方法ニ依リ國民經濟ノ運行  
ヲ著シク阻害スル虞アル行爲ヲ爲シタル者  
ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス、ト云フ  
規定ガ設ケラレタノデアリマス、此ノ第二  
項ニ「前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因  
リ十萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得」  
ト云フ規定ガアルノデアリマス、是ハ此ノ  
改正デ注目スベキ點デアルト思フノデアリ  
マス、第五ノ項目ハ失火罪デアリマス、過  
失ニ依ツテ火事ヲ出シマシタ者ハ、從來現行  
法ニ依リマスルト三百圓以下ノ罰金デアリ  
マシタガ、之ヲ千圓ニ改メマシテ、且又失  
火罪ノ次ニ、火藥汽罐其ノ他激發シ易キ物  
ヲ破製セシメテ家ヲ燒イタリ財產ニ損壊ヲ  
與ヘタト云フ場合ノ規定ガアリマスガ、其  
ノ規定ト失火ノ規定トノ二ツニ對シテ、其  
ノ行爲ガ業務上必要ナル注意ヲ怠ッタルニ  
因ル場合、又重大ナル過失ニ出デタル場合  
ハ、三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金

ト、體刑ヲ加ヘルコトニ過失罪ヲ重クシタノデアリマス、第六項目ハ、公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタト云フコトデ、是ハ從來アリマシタ規定ニ幾ラカ加ッタノデアリマスガ、刑ヲ重クシタノデアリマス、第七ハ瀆職ノ罪デアリマス、公務員又ハ仲裁人ガ瀆職ヲシタ場合ニ、之ヲ罰スル規定ガ不完全デアリマシタカラ、今度完全ナモノニシテ色々ナ規定ヲ設ケタノデアリマスガ、其ノ第一ハ、公務員又ハ仲裁人タラントスル者ガ瀆職ヲスル、今迄ハ公務員タル者ガ瀆職ヲスルノデナケレバ犯罪ニナラナカシタノデアリマスガ、公務員タラントスル者ガ瀆職ヲ致シマシテ、サウシテ公務員トナシタ場合ニ於テ之ヲ罰スルト云フ規定ガ設ケラレタノデアリマス、公務員又ハ仲裁人ガ請託ヲ受ケマシテ、自分ガ金ヲ取ラズニ、第三者ニ賄賂ヲ供與セシメ又ハ要求スルト云フヤウナ場合ニ、矢張リ罰スルコトニナリマシタ、其ノ次ハ公務員又ハ仲裁人タリシ者ガ、在職中ニ請託ヲ受ケテ瀆職ヲシタコトニ關シマシテ、矢張リ「タリシ者」デモ、公務員デナクナシタ後ニ於テモ、罰セラレル規定ガ設ケラレタノデアリマス、ソレカラノ次ニ、元來公務員ノ瀆職ト云フモノハ、其ノ職務行爲ニ關スルモノデナケレバ罰スルコトガ出來ナイコトハ御承知ノ通りデアリマスガ、ソレヲ公務員ガ自分ノ地位ヲ利用シマシテ、他ノ公務員、同僚其ノ他ノ公務員ノ職務ニ屬スル事項ニ付テ斡旋ヲシテ、其ノ幹旋ヲシタ結果賄賂ヲ收受スルト云フ場合ハ、是モ矢張リ瀆職罪トシテ認ナルモノデアリマシテ、其ノ他ノ規定ハ之ニ伴ヒフ規定ヲ置イタノデアリマス、第八ノ項目ハ、以上ノ規定ヲ整理スル條文ノ關係デ改マッタモノデアリマス、只今申上ゲマシタ通り第四ト第七ハ時局ノ實情ニ鑑ミマシテ特ニ必要ナルモノデアリマシテ、其ノ他ノ規定ハ之ニ伴ヒ改正ニナシタ云フ部分ガ多イノデアリマス、質疑應答ハ、只今申上ゲマシタ通り澤山ゴザイマシタガ、其ノ中、重要ナル

モノヲ申上<sup>シテ</sup>、ガテ見マスルト、一委員ヨリ、改正案ノ規定ハ、刑法假案ニモ必要ト思フモノガ大分アルニ、之ヲ極メテ少クシテ、假案申ノ必要ナル部分モ規定シナカダノハドウ云フ譯デアルカト云フ間ニ對ジマシテ、政府當局ハ、多クノ條項ノ改正案ヲ出ス等デアツタケレドモ、戰時下ニ必専ナルモノニ限<sup>シ</sup>テ成ルベク條項ヲ少クシタ爲デアル、サウ云フ方針デアツタ爲ニ、此ノ刑法ノ改正モ極ク僅カ提出シタモノデアルト云フ答辯デアリマス、ソレカラ一、三ノ委員方カラ、今回提出セラレタ改正案ノ規定スル條項ハ、戰時立法トシテ特別法<sup>ト</sup>規定スベキモノデハナイカ、サウ云フヤウナ性質ノヤウニ思ハレル、殊ニ安寧秩序ニ對スル罪ノ如キモノハ、是ハ時勢ニ應ジテ變化シテ行クモノデアル、變ヘテ行カネバナラヌモノデアルカラ、特別法ノ性質ニ屬スルモノデハナイカ、又非當時局ニ應ズルモノトシテハドウモ少シ足リナイヤウデアルト云フヤウナ趣旨ノ御質疑ニ對シテ、政府當局ノ答ハ、大體多年司法省ニ於ケル刑法改正調査委員會デ規定シタモノニ則<sup>シ</sup>タモノデアルノデ、從來特別法トシテ規定シテ居ッタモノデモ、刑法改正假案ノ方テハ實體法ノ中ニ入レルベキモノトシテ大分取入レタノデアル、ソレデアリマスカラ、此ノ刑法ノ規定中ニ入レル必要アルモノダケガ此ノ假案ニ入<sup>シ</sup>テ居ッテ、此ノ改正案モ亦ソレニ從<sup>シ</sup>テ此ノ刑法改正案トシテ提出シタノデアル、要スルニ其ノ罪質ハ實體法トシテ長ク效力ヲ有セシムベキ性質ノモノデアツテ、特別法トシテ一時のモノデハナイノデアルト云フ御答辯デアリマシタ、ソレカラ一委員ヨリ、現行刑法ハ罰金ハ大概千圓位ノ程度ノモノデアル、然ルニ俄カニ十萬圓ト云フ規定ヲ置イタノハ、少シ飛躍的デアツテ急激ニ過ギハシナイカト云フ御尋ガアリマシタ、之ニ對シテ政府當局ハ、現行刑法制定當時ノ罰金ト云フモノハ、今日ノ經濟狀態ニ鑑

ミルト至ッテ低イカラ、高クシタノデアルガ、此ノ改正案デハ、大體ハ刑法改正假案ノ趣旨ニ基イテ罰金額ヲ高クシタノデアル、斯ウ云フ答デアリマス、サウシテ第百五條ノ四ノ、先刻私ガ申上ゲマシタ十萬圓ト云フ分ハ、是ハ國防保安法ノ規定ヲ參照シテ、暴利ノ目的ニ出テ場合ニ限テ適用スルコトニシタ爲ニ、十萬圓ト云フコトガ規定サレタノデアリマス、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、尙附加ヘテ政府當局ハ、近時犯罪ノ規模ガ大分大キクナツテ、僅カノ金額デハ莫大ナ利益ヲ得タ者ニ對シテハ制裁ニナラナイト云フコトモ考ヘタノデアルト云フ御答ガゴザイマシタ、ソレカラ一委員ヨリ、戰時局ニナツテ瀆職罪ハ增加シタカト云フ御尋ニ對シテ、政府當局ハ、近時官公吏ガ民業ノ一部ヲ分擔スル如キ情勢トナツタノデアリマシテ、或ハ民間ノ產業ニ從事スル者が多クナリ、詰リ官吏公吏ト民間ノ人ト密接スル機會ガ多クナツタノデアリマスカラ、種々ノ誘惑モアルヤウデアリ、弊害ガ少クナイト思フカラシテ、之ヲ取締ル必要ヲ認メタ、斯ウ云フ御答辯デアリマス、ソレカラ安寧秩序ノ罪ノ中ニアリマス人心惑亂ト云フコトニ付テ、一委員ヨリ、人心惑亂ト云フノハ何ノ事カト云フコトノ御問ニ對シテ、政府當局ハ、例ヘバ何處々ニ米騷動ガアッタ、或ハ大官ガ何處々ニ殺サレタト云フヤウナコトヲ言フノダ、ト云フコトヲ申シマシタ、虛偽ノ事實ヲ流布スルト云フノハ、虛偽ト云フノハ實際ノ虛偽デアルカ、本人ガ事實ト信ジタコトナレバソレハドウデアルカト云フ御問ニ對シテハ、實際ノ虛偽ヲ謂フノデアル、虛偽ナリトノ認識ヲ要スルノデアルト云フ政府當局ノ答辯デアリマシタ、眞實ナリトシテ自分ガ思ッタコトハ、是ハ目的罪デアリマスカラ、人心ヲ惑亂スル目的ヲ以テト云フコトニハナラナイト云フ御答辯デアリマス、ソレカラ一委員ヨリ立法ノコトニ付テ御尋ガアリマシテ、

刑法立法ノ方針如何ト云フ趣意デアリマス、是ハ司法大臣ガ御答ニナリマシテ、反道義的ナ所謂自然的ノ性質ヲ有スル罪ノ中デ、主要ナルモノハ廣ク之ヲ包含セシメタイト思シテ居ル、刑法ニ包含セシメタイト思シテ居ル、從シテ現在ハ單行法中ニ規定セラレテ居ルモノデモ、右様ノ性質ヲ有スルモノハ之ヲ刑法典中ニ取入レ、又必耍ナル規定ハ之ヲ新タニ設ケテ刑罰法令ノ基本法タルノ實ヲ備ヘシタル考デアル、尙又同委員ヨリ現在ノ非常時局ニ對處スル爲、安寧秩序ノ維持ニ關スル法令ヲ、更ニ整備シ、整理整頓シ、サウシテ擴張スル意思ハナイカト云フ間ニ對シテ、司法大臣ハ、現在ノ如キ非常時局下ニ於テハ、國內治安ノ維持ト云フコトハ最モ肝要ナ事柄デアリマスコトハ御言葉ノ通りデアル、司法省ニ於テハ更ニ銳意研究ヲ重ネテ、安寧秩序維持ニ關スル各種ノ法令ヲ改正又ハ新設シテ、治安ノ確保ニ努メタイト思シテ居ルト云フ、御答ニアリマス、ソレカラ尙同委員ヨリ、戰時中ト雖モ刑法典ノ如キ基本的法典、其ノ他時局ニ對處スル爲必要ナル法令ヲ改正シ、又ハ必要ニ應ジ之ヲ新設スル意思ガアルカト云フ問ニ對シテ、司法大臣ハ、刑法改正調査委員會ハ昨年十月内閣ノ方針ニ依リ一時廢止ノ已ムナキニ至ッタノデアリマスガ、司法省トシテハ、刑法ハ勿論其ノ他ノ法令ニ付キマシテモ、之ガ改正及新設ニ付テ熱心ニ研究シ、之ヲ時勢ニ適應セシメ、司法部ノ任務ヲ全ウスルコトニ最善ノ努力ヲ致シタiktト思シテ居リマス、一委員ヨリ、是ハ他ノ委員デアリマス、賛會ノ役員ノ贈收賄ニ關スル罰則ニ關スル規定ヲ設クル意思ガナイカト云フ御尋ニ對シマシテ、司法大臣ハ、賛會ノ役員ハ現行刑法ニ所謂公務員ニ該當シマセヌガ、同會ハ其ノ事務ノ性質上、役員ノ職務ニ關スル贈收賄ト云フコトハ法律上ニ之ヲ規定スル必要ヲ感ジテ居ナイト云フ御答ニアリマス、尙司法大臣ノ御答ニ

關聯シマシテ同委員ヨリ、非常時局ニハ種ノ法律ヲ制定シ且之ヲ統制スペキ必要ガアル、故ニ從來アリタル法制審議會ノ如キモノハ此ノ際益々必要ヲ感スルノデアル、宜シク法制ニ通ズル權威者ヲ集メテ、議會ニ提出スル前ニ豫メ法案ヲ審議スル必要ガアルデアラウ、是ハ法律案ヲ審議スル機關アツテ民意ヲ納レテ立案スル、此ノ法律案ヲ審議スル機關ガ民意ヲ納レ立案スルコトトナレバ、一方國民モ納得スルデアラウ、殊ニ民法トカ刑法トカ云フ法典ニハ、其ノ必要ガアルト思フガ、ドウデアルカト云フ質疑ニ對シマシテハ、司法大臣ハ、國民ヲ納得セシムル爲衆智ヲ集ムル必要ガアルト云フ御意見ハ御尤モデアル、將來立法ニ當テハ適當ナ方法ニ依ッテ民意ヲ納レルコトニ注意ヲスル、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、以上ノ外マア重要ナル質疑應答モアツクノデアリマスガ、長クナリマスカラ速記録ニ依テ御承知願ヒタインデアリマス、是デ質疑ハ終了致シマシテ、討論ニ入リマシテ、一委員ヨリ本案賛成ノ演説ガアリマシテ、結果全會一致デ可決トナッタノデアリマス、反對説ヲ唱へタ人ハ一人モゴザイマセヌ、右結果ヲ御報告申上ガマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 別ニ御發言モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵秋田重季君 賛成  
メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス  
議ニ御異議ハゴザイマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス  
議ニ御異議ハゴザイマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス



リテ御異議ハゴサイマセ又カ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

メマス

○議長(伯爵松平 輞壽君) 日程第十四、日本發送電株式會社法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長溝口伯爵

日本發送電株式會社法中改正法律案  
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及  
報告候也

貴族院議長伯爵松平賴壽殿  
委員長 伯爵溝口直亮君演壇ニ登ル

○伯爵溝口直亮君（只今議題ニナリマシタ）ル所ノ日本發送電株式會社法中改正法律案委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本委員會ハ去ル十四日開會致シマシテ、爾來三回ニ亘リマシテ十分ニ審議ヲ致シマシタ、昨十八日ヲ以テ本案ヲ可決致シマシテ委員會ヲ終リマシタ、其ノ間ニ於ケル質問應答ノ重要ナルモノ數件ヲ御報告申上ゲマシテ、他ノ詳細ナルコトハ總て速記錄ニ依ツテ御覽ヲ願ヒタイト存ジマス、第一ニ問題ニナリマシタコトハ、日本發送電株式會社ガ本案ニ依ツテ果シテ政府御希望ノ如ク立直ルカドウカ、尙此ノ補給ハ五年間デアルガ、ソレ迄ニ會社ガ直立ツテ自力デヤッテ行ケルヤウニナルカドウカト云フコトニ付テノ御質問デゴザイマス、之ニ關スル政府ノスルコトニ付テ出來ルダケノ努力ヲ拂フカラシテ、先づ自力立直リノ見込ハ十分アル、然ラバドウ云フ點ニ於テ計算ガ採レルヤウ銚意努力中デアル、政府ニ於テモ之ヲ助成ニナルカト云フ御質問ニ對シマシテハ、政府デハ内部ノ冗費ノ節約、ソレニ此ノ度法

院議事速記録第十六號 日本發送電株式會社  
律デ出マシタ所ノ免稅及將來ニ於ケル電力  
料金ノ更改、之ニ依ッテ自力デ更生スルコト  
ガ出來ルデアラウト云フ御答デゴザイマシ  
タ

法中改正法律案 第一讀會ノ續  
……此ノ負擔ハ總テ國民ガ負フノデアルカラ、是ヨリモ先ニ電力料金ノ更改ヲシテ、ソレデ電力業者ニモ負擔ヲサシタラドウデアラウカト云フ御質問ニ對シマシテ、政府ニ於テハ誠ニ御尤モナコトデアルガ、明年丁度契約更新期ニナルカラ、其ノ時ニ於テ考へテモ敢テ遲クハナイト思フト云フ御答デアリマシタ、次ニ此ノ電力料金ノ更改ニ付テ更ニ一委員ヨリシテ、成ル程日本發送電會社ノ方カラ考ヘレバ、卸賣料金ノ更改ニ依ツテ利益ヲ得テ、其ノ更生ガ出来ルコトハ尤モデアルガ、是ハ詰リ、日本發送電會社ノ損失ト申シマスカ若シクハ不利益ノコトヲ、今度ハ配電會社ニ轉嫁スルコトデアル、而モ政府デハ小賣料金ハ値上ゲシナイト云フコトヲ頻リニ言ツテ居ラレル、サウスレバ結局發送電ノ卸賣ニ於ケル損失ヲ、全部配電會社ニ轉嫁サセルコトデアル、結局サウスレバ甲ノモハカラ乙ニ持ツテ行ツタヤウナ風ニナツテ、今度ハ又配電會社ノモノガ基礎其ノ他營業總ニ於テ不安ニナツテ來ヤシナイカト云フ御質問ニ對シマシテ、政府當局ハ、成ル程ソレハ尤モノコトデアルガ、配電會社ハ將來機構ヲ變へ、其ノ他諸答デアリマシタ、尙一委員ヨリシテ小賣料金ト云フモノハ絶對ニ上ダナイ御積リデアル値上ニ對シ營業上不安ノナイヤウニ努メル、又ソレガ出來ルグラウト思ブト云フ御答デアリマシタ、尙一委員ヨリシテ小賣料金ト云フモノハ絶對ニ上ダナイ御積リデアルガ、配電會社ハ將來機構ヲ變へ、其ノ他諸種ノ方法ニ依ツテ、是等ノ電力料金更改ニ依ル、又ソレガ出來ルグラウト思ブト云フ御質問ニ對シマシテ、政府當局ハ絶對ト云フコトハ申上ダラエナイ、例ヘバ今迄ノ小賣料金ニ於テ或獎勵のノ割合ノ形勢ヲ見、總テノ土地ノ狀況其ノ他ヲ引ヨシテ居ル處ガアツタ、又地方々々ニ依ツテ小賣料金ガ非常ニ違ツテ居ル、是ハ現ニ餘程ノ差ガゴザイマス、是等ニ付テハ能ク一例ヘバ今迄ノ小賣料金ニ於テ或獎勵のノ割合ヲ見テ是正ンテ行ク積リデアル、從ツテ或處ハ今迄ヨリハ高クナル處ガアルカモ知レナイ、要又ズット安クナル處ガアルカモ知レナイ、要スルニ是ハ總ニ於テ適正ナル價格ヲ與ヘ

ノ實行ニ當ツテハ官民ノ識者、實際家ノ業者ノ意見ヲ聽キ、萬全ヲ期シタイト思フト云  
フ御答デゴザイマシテ、尙政府ハ此ノ配電  
統合ノ形式其ノ他ニ付テハ具體的結論ヲマ  
ダ得テ居ナイ、是ハ十分是カラ急イデヤル  
積リデアルガ、模範的ナル公共事業ノ會社  
ト申シマスカ、統合方法トシテヤッテ行キ  
タイト思フト云フ御答デアリマシタ、ソコ  
デ之ニ關シマシテ委員ヨリ尙種々ナ質問ガ  
起リマシタ、某委員ヨリシテ、一體此ノ日  
本發送電會社ノ出來マシタ際モ、第一次近  
衛内閣ノ時、可ナリ無理ヲ押シ切ッテ造ツタ  
モノデ、此ノ法案ニハ色々缺點ガ含ンデ居  
タコトハ識者ガ皆認メテ居ル、殊ニ遞信當  
局ニ對シテ甚ダ我々ノ遺憾トスル所ハ、當時  
兩院ニ於テ公約サレタル所ノ事實ハ一ト  
シテ實現サレナイ、其ノ最モ甚ダシイノハ  
第一條ニアル所ノ豊富低廉ノ問題デ、是ハ  
御説明スル必要ハナイト存ジマス、加之、  
天災其ノ他種々ナル惡事情ノ爲ニ禍ヒサレ  
タトハ言ヒ條、電力ノ不足其ノ他ニ於テ產  
業ニ惡影響ヲ及シタルコトハ非常ナモノデ  
アル、甚ダ遺憾ナルコトデアルガ、ドウモ  
此ノ日本發送電會社ノ設立ガ、國策會社ト  
申シマスカ、我ハ半官半民ノ會社ト申シマ  
スカ、ソレ等ノ設立ニ於テ民心ニ非常ニ不  
安ナル感ジラ與ヘタト云フ、誠ニ遺憾ナルコ  
トヲ我々ハ經驗シテ居ル、從ツテ將來此ノ配  
電統合ニ於テハ十分政府モ御考ニナツ、ソ  
ンナ過チヲ再ビスルト云フヤウナコトガナ  
イヤウニ、十分ナル御配慮、御決心ヲ願ヒタ  
イト云フ質問ニ對シマシテ、遞信大臣ハ、確  
信ヲ以テ、是ハ決シテ無理ハセズ、官民一  
致十分ナル了解ト十分ナル計畫ヲ以テ將  
來ノ模範トナルガ如ク組織スル考デアル、  
決シテソレニ付テ御心配ハ要ラヌ、十分將  
來ノ實行ノ跡ヲ一ツ見テ戴キタイモノデア  
ルト云フ御答デゴザイマシタ、次ニ一委員  
ヨリシテ、前ニ日本發送電ノ時ニ問題ガゴ  
ザイマシテ、此ノ發電ト送電ト配電ト云フ

モノハ、一貫作業ニシタ方ガ最モ經濟的ニ  
モ統理ニモ都合好イカラシテ、之ヲヤッタ  
ラ宜カラウト云フノデ、嘗テ其ノ時分ノ特  
別委員會ニ於テ修正案トシテ提出サレタコ  
トガアルコトハ御記憶ガアラウト存ジマス、  
之ニ付テノ又議論ガゴザイマシテ、政府デ  
ハ本案ニ依リマシテ發電ト送電ハ殆ド一ツ  
ニスル、然ルニ配電ダケハ別々ニシテ、而  
モ各「ブロック」ニ別ケテ獨立シタモノヲ作  
ル、是ヨリモ寧ロ二ツノ方法ガアル、一ツ  
ハ各「ブロック」ニ於テ發電、送電、配電ヲ  
一ツニスル、若シクハ全國ヲ一ツニシテ全  
部一貫作業ニスル、此ノ一ツニシタ方ガ有  
利ト思フガ、政府ノ御所見ハドウカト云  
フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、配電ハ諸種  
ノ關係上全國ヲ統合スル利益ハ、餘り自分  
ノ方デハ認メテ居ナイ、然ルニ之ニ反シテ  
發電及送電ノ方ハドウモ全國ヲ一ツニシナ  
イト、「ブロック」別ニスルト云フコトハ諸種  
ノ點ニ於テ不利益デアル、ソレ故ニ各「ブ  
ロック」別ニ於ケル一貫作業ト云フモノハ  
贊成シ兼ネル、又全國ヲ一ツニシタ所ノ一  
貫作業、即チ全部ノ發電、送電、配電ト云  
フモノヲ皆一ツニシ、大キナモノニシタラ、  
ドウモ是ハ餘リ大キ過ギテ、一ツノ機關ニ  
於テ振り廻スコトハ困難ヂヤナイカト思ハ  
レル、殊ニ配電ハ全國ヲ一ツニシテヤルト  
云フコトノ必要ト云フカ利益ト云フモノハ、  
ドウモ認め得ナイ、從ツテ一貫作業ト云フ  
モノハ目下ノ所ヤラウト云フ考ハナイト云  
フコトデアリマシタ、次ニ政府ノ説明ニ依  
リマスト、電力ノ需給ノ關係ト云フモノ  
ハ、近キ將來ニ於テハ、殊ニ改善サレルト  
云フ御見込ガナイキウニ伺ッテ居ル、サウ  
スルト是カラヤリマス所ノ軍需產業ヲ始メ  
諸種ノ產業ノ増産計畫ニ及ス影響ト云フモ  
ノハ非常ニ大キイカラシテ、何トカシテ電  
力ヲ増スヤウニ十分ニ御考ヲ願ヒタイガ、  
ソレニハ先立ツモノハ資材デアル、資材供  
給ニ付テハ、政府ハドウ云フ風ニ御考ニナツ

チ居ルカト云フ問ニ對シマシテ、遞信當局ハ、政府モ建設用ノ資材ノ確保ニ付キマシテハ、現在モ萬全ヲ期シツ、アルガ、今後一層ノ努力ヲ傾注スル、重點主義ヲ以時局下ニ最モ合理的ナル資材ノ活用ヲシテ電力増産ニハ努メタイト思ズテ居ルガ、併シアル資材ニ於テ、限リナキ需要ニ應ズルコトハ出來ナイカラシテ、電力ノ増産ト云フコトニ付テモ出來ルダケノコトハスルガ、是デハ十分ダト云フヤウニ出來ルカドカラ、ウカト云フコトハ甚ダ心許ナイン、最後ニ構太及北海道ニ於ケル炭山ノ買收ニ付テノ御質問ガゴザイマシタ、此ノ實情ニ付テハ、主トシテ祕密會ニ於テノ問答デゴザイマスニ於テ再検討サレルト云フコトデアリマスガ、之ニ付テハ將來日本發送電會社ノ監整會ニ當リマシテ、決シテ微ニ瓦リ細ニ入ルガ如キ干涉的ノ監督ハ必要ナイト思フ、嚴正ナル監督ヲスルト云フコトデアリマシタ、其ノ他委員會ニ於キマシテハ約一日間祕密會ヲ開キマシテ、其ノ間ニ遞信、陸軍・太藏、司法及内閣東北局ノ當局ヨリシテ、種々タル監督ヲスルト云フコトデアリマシタ、其ノ項目ヲ申上げマスト、最近ニ於ケル電力電石礦區買收ニ關スル經緯、ソレ等デゴザイマス、其ノ他尙種々重要ナル御質問ガゴザイマシタガ、只今此處デ全部ヲ申上げノハ餘リニ時間ヲ取リマスノデ、總テ略シタル、速記錄ニ譲リタイト存ジマス、昨十八日午後質問ヲ終リマシテ、討論ニ入り、數委員ヨリシテ贊成ノ御發言ガゴザイマシタ、贊成ト同時ニ種々ノ御希望ヲ開陳サレマシタ、是亦速記錄ニ譲リマシテ、主ナル御意見ノ點ダケヲ申上げタイト存ジマス、

程申シマシタ通り、ドウモ此ノ前ノ日本發送電會社設立ノ時ノ政府ノ聲明等ニ依ルト、水力發電所ノ出資ハ必ズシモ必要トハ思ヘナイ、サウンシテ見ルト何トカ外ノ方法ヲ以テ、水力發電所ニ出資シナイ方ガ、之ニ依ツテ起ル所ノ種々ナル影響ヲ避ケルコトガ出来テ宜クハナイカト云フ御意見、其ノ次ハ日本發送電株式會社ノ監督ニ當ツテハ先程モ申上ゲマシタ通り、敢テ細カイ干渉ハシナクテ宜イカラシテ、嚴正ニ監督シテ、而モ國民ガ國民ノ負擔ニ於テ是ダケ補助シテ居ル以上ハ、國民ノ期待ニ背カヌヤウニ、或疑惑ヲ國民ニ懷カスヤウナ行動ニ付テハ政府當局ニ於テ十分取締ツテ、サウ云フヤウナ行爲ノナイヤウニ豫メ監督スルコトガ必要デアラウト云フ御意見モゴザイマシタ、其ノ他尙數氏ヨリ種々御意見ガ陳レマシタ、是亦速記錄ニ譲リマス、斯クノ如クシテ、討論ヲ終リマシテ、採決ヲ致シマシタ結果、全員一致、異議ナク原案ヲ可決致シマシタ、右御報告申上ゲマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 別ニ御發言モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマス



ノ御質問ニ對シマシテ、政府ハ大體ニ於テ運用上御趣旨ニ副ヒ得ルデアラウトノ答辯デアリマシタ、其ノ他昭和十二年法律第五十七號改正法律案、臨時利得稅法中改正法律案、國稅徵收法中改正法律案、關稅法中改正法律案、是等ノ四案ハ、我ガ國現下ノ情勢ニ鑑ミ當然生ズベキ改正法律案デアリマスカ、若シクハ他ノ法律ノ改正ニ伴ヒ當然生ズベキ改正法律案デアリマス、是等ノ四案ニ對シテハ別段ノ御質疑モ、ゴザイマセヌデシタ、斯クテ討論ニ入りマシタル處、一委員ヨリ關稅定率法ノ改正ハ、政府當局ノ詳細ナル説明ニ依リ、我ガ國現下ノ狀況ニ照シテ已ムヲ得ザル必要アルコト確信スルモノデアル、既ニ同僚各委員ニ依リ種種御質問ガアリ、ソレニ對スル政府ノ答辯モアリマシタカラ間違ナイコトトハ存ジマスルガ、此ノ改正案ハ、當然帝國議會ニ諮詢セラルベキ事項ヲ委任スルト云フコトデアリマスノデ、之ガ運用ニ當ツテハ、本法改正ノ必要ニ應ジテ改正セラレタル其ノ精神ヲ守ツテ、濫リニ此ノ規定ヲ各方面ニ擴張スルガ如キコトノナイヤウニ注意アリタシ、本委員ハ政府ノ辯明ヲ深ク信賴シテ此ノ案ニ賛成ヲ表スル次第ナリ、ト云フ御意見ノ御開陳ガゴザイマシタ、次テ採決ニ入リマシテ、關稅定率法中改正法律案外五案ヲ一括シテ議題ニ供シマシタル處、全會一致、各案共政府原案通り可決スベキモノト決定ニ相成リマシタ、以上ハ委員會ノ經過ノ極メテ大要ヲ申上ゲマシタガ、尙詳細ノ點ニ付キマシテハ之ヲ速記録ニ譲リタイト思ヒマス、右御報告申上ガマス

○子爵大河内潤執君 ソレデハ……  
〔子爵大河内潤耕君 演壇ニ登ル〕  
○子爵大河内潤耕君 只今ノ委員長ノ御報  
告デ詳細能ク分リマスノデ、彼此レ申スコト  
モナイ、殊ニ斯ウ云フ風ニ時間モ遅クナリ  
マシテ誠ニ恐縮デゴザイマスガ、事重大ナ  
外交上ノ關係ガアリマシテ、世間往々本案  
ニ付キマシテ誤解ガアリマス、此ノ際之ヲ  
解イテ置クコトガ必要ダト存ジマシテ、贊  
成意見ヲ述ベルニ當リマシテ、此ノ事ヲ茲  
ニ明カニ致シテ置キタイト存ズル、初メ申  
上ダマスガ、實ハ外務大臣ノ出席ヲ要求シ  
テ置キマシタノデス、オイデニラナイン  
ハ、誠ニ是ハ私ハ遺憾トスル、斯ウ云フ外交  
上ノ重大ナル問題ニ對シテ、ドウ云フ御用カ  
知リマセスケレドモ、大臣トシテ御出席方  
ナイト云フコトハ、ドウ云フ譯カ、職域奉  
公ヲ主張サレル近衛内閣ニモ似合ハシカラ  
ザル御ヤリ方ト思ヒマシテ、是ハ政府ニ警  
告致シテ置キマス、尙此ノ案ハ、ドウ云フ  
誤解カト言ヒマスト、是ハ責任アル官吏  
デアルトカ大臣デアルトカ、或ハ皆様方  
シテ居ル者ガアル、ドウ云フ譯デ、是ガ條  
約違反カト云フト言フト、近接地域ニ對ス  
ヌ、併シ世間ノ人達ハ、此ノ案ヲ見マシテ  
是ハ條約違反ノ疑ガアルト云フコトヲ申  
ガ關稅定率法ノ改正「第三條ノ二」デゴザ  
イマス、此ノ近接地域ト云フコトニ付キマ  
シテハ、何處ヲ含ムノカハッキリシナイ、併  
シ或國ヲ臘口氣ニ指シテ居ルモノダト思  
フ、ソレニ對シテ勝手ニ關稅ヲ減免スルト  
云フコトニナリマスルト、是ハ最惠國約款  
ニ正面カラブツカツテ來ル疑ガアル、釋當テ  
ハナイノデハナイカト云フ疑ガアル、デ之  
ニ付キマシテ事重大ナル外交上ノ關係ガゴ  
ザイマスカラ、私共委員トシテ審議ヲ致  
シマシタコトニ付キマシテ、其ノ趣旨ヲ一  
應述べ置キタイト存ジマシテ、ソレデ皆様

ニ御迷惑ヲ掛ケル次第ナンデス、是ハ私共  
審議致シマシタ結果カラ見マスルト、能ク  
質問應答ヲ重ネテ見マスルト、何モ條約違  
反デモ何モナニ、申上ガル迄モナク、近  
接地域ニ致シマシテモ、何處ノ地域ニ致シ  
マンテモ、唯關稅ヲ減免スルコトヲ得ト、  
是ダケノ權限ヲ政府ニ興ヘルノデゴザイマ  
シテ、唯ソレダケノコトナンデス、之ニ依ツ  
テ第三國ヲシテ均霑セシムルヤ否ヤト云フ  
コトハ、是ハ今後ノ折衝ニ俟ツベキモノナ  
ノデ、本案ハ何等ソレニ付テ規定シテ居ル  
コトハナイ、若シ本案ガ、關稅ハ減免セシ  
ムベシト、第三國ヲシテ均霑セシムベカラ  
コトヲ得トスウアル、減免セシムルコトヲ  
ズト書イテアレバ、是ハ如何カ知リマセヌ、  
是ハ疑ノ餘地モゴザイマスガ、サウ云フコ  
規定ニ依リマシテ、此ノ法律ガ通過シマシ  
ウハサツバリ書イテナイ、唯、減免セシムル  
コトヲ得トスウアル、減免セシムルコトヲ  
得ト云フコトデアリマスレバ、今後ハ此ノ  
シテ之ヲ均霑セシメテ差支ナインラバ、  
其ノ儘均霑セシメテ宜イ、若シ均霑セシメ  
ルコトガ宜クナイト云フコトナラバ、其ノ  
レバソレデ宜イコト、若シモ或第三國ニ對  
國ト外交上ノ御交渉ニナツテ、其ノ場合ニ均  
霑セシメナイヤウナ風ニ條約ヲ御改メニナ  
レバ宜イ、殊ニ滿洲國ニ對シマシテハ……  
「タイ」國竝ニ「イタリー」、此ノ二國ハ特例  
ガアルヤニ承ツテ居ル、若シ均霑セシメナイ  
積リナラバ、此ノ例ヲズット御擴ゲニナレ  
バ宜イ、均霑セシメテ差支ナノナラバ別  
ニ其ノ儘拋ツテ御置キニナツテモ構ハナイ、ソ  
レデアリマスカラ此ノ法律ガ出タカラト言  
ウテ、少シモ條約違反ナント云フコトハ到  
底及ビモ付カナイ、此ノ點ハ無論責任アル  
御方デヤゴザイマセヌガ、世間ニチヨイ  
チヨイ疑ヲ引ク虞ガゴザイマスカラ、此ノ點  
ハ茲ニ明カニシテ置クコトガ必要ダト存ジ  
マシテ、此ノ事ヲ明カニシテ本案ニ贊成ヲ  
致シマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 他ニ御發言モナ  
ケレバ、先づ日程第十五、關稅定率法中改  
正法律案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀  
會ヲ開クコトニ御異議ガゴザイマセヌカ  
○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第一讀  
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路子爵ノ動  
議ニ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第二讀會  
ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ問  
題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告述  
リデ御異議ガゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀  
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路子爵ノ動  
議ニ御異議ガゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第三讀會  
ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議迴  
リデ御異議ガゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認  
メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 次ニ日程第十六  
ヨリ第二十迄ノ五案ニ付テ採決ヲ致シマス、五  
案ノ第一讀會ヲ開クコトニ御異議ガゴザイ

